

設置台数3030台 楽園は大宮で何を見る？

今回取り上げるのは、JR大宮駅前エリアでひととき存在感を増した「楽園大宮店」。
約2100台と設置台数で周辺競合店ホールを大幅に引き離していた同店が、
マルハン退店跡地を取得し、4月26日に2491台に増台、5月22日には3030台に。
文字通り、「日本一のその先」にある店舗となりました。
その経緯と、喫煙・禁煙比率など、取り組みの一端を見てみましょう。

エリア総台数は4788台 うち6割強を楽園が占有

「楽園大宮店」のあるJR大宮駅は、新幹線・在来線ともに、東京と東北・信越地方を結ぶ路線の分岐点。乗り入れ路線数は東京駅に次ぐ全国2位、乗降客数は約75万人/日です。

同駅周辺のホールは6店舗（総台数4788台）。駅前商圈としては十分な台数規模ですが、「楽園大宮店」（3030台）を除くと平均設置台数は351台。大規模化が容易でないことがうかがえます。

もともと、大宮駅は周辺居住地からのアクセスに加え、都心部への接続路線も充実。反面、この利点も、平日は都心の勤務地周辺の駅前店、休日は居住地周辺の郊外店にユーザーが流れる要因に。大宮駅周辺で営業するホールにとって、地代の高さとともに経営が困難なロケーションと認識されました。

これまでの経緯を振り返ると、2002年、静岡県を中心に25店舗を展開する浜友観光が、大宮駅

東口の商店街に「楽園大宮本館」（759台）をオープン。以後、エリアに大きな動きありませんでしたが、2013年12月を境に、にわかに活況を呈していきます。

きっかけは、「楽園大宮本館」のはず向かい、関東で11店舗を運営するヤナガワの「オリエンタルパサージュ大宮店」跡地への、「マルハン大宮駅前店」（1213台）の出店。

翌年9月には、今度はマルハンに隣接する商業ビル内に、「楽園大宮新館」（2103台）が、全国最大の設置台数（当時）でグラウンドオープン。それに合わせ、「本館」を禁煙店舗にシフトし、総台数2862台のすみ分けで、マルハンと対峙することに。この競争の結果は、駅側からの動線を押さえた「楽園」の勝利に終わりました。

2017年11月のマルハンの閉店で、一区切りが果たしたかと思われた大宮駅前商圈ですが、「楽園」には「その先」がありました。
今度は、マルハン跡地を取得し、「楽園大宮新館」との行き来ができるよう一部を改装。4月26日に、「楽園大宮店」（2491台）とし

てリニューアルオープン。さらに5月22日には、閉鎖していた旧マルハンの2階（20スロ、244台）、3階（1パチ、295台）部分を加えた3030台に増台。なお、旧マルハン側が禁煙エリアになっています。

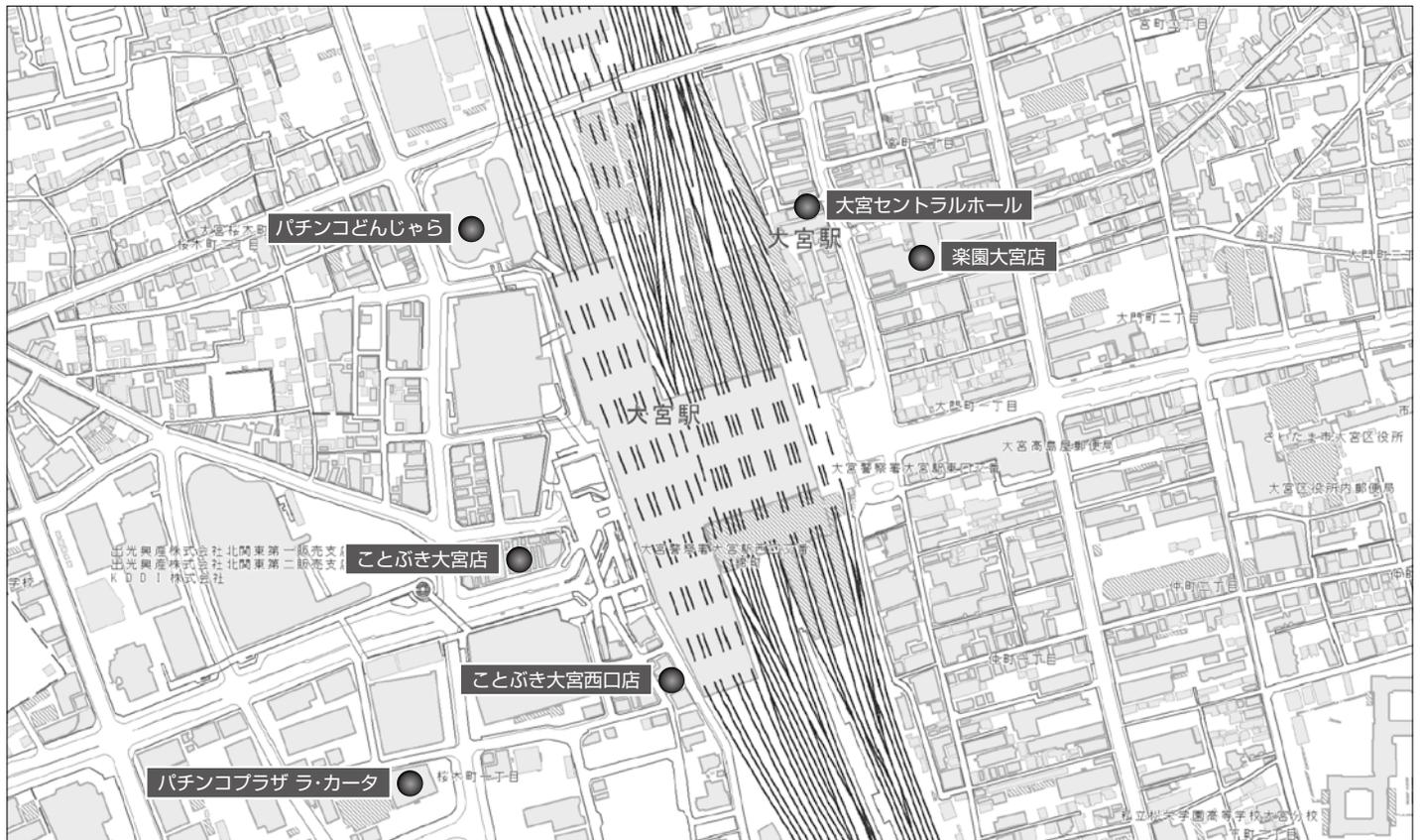
貸玉料金で異なる禁煙比率 狙いは低貸しの新規客？

同店の営業許可は四つに分かれ、旧マルハンと楽園新館も、行き来ができるのは2階と3階のみ。しかし、「本館」と「新館」が別店舗だった状況と比較すると、回遊性は格段にアップしました。

構成比をみると、大宮中心部はシニア比率が37%と全国（45.6%）に比べて低いことから、同店のPS比率は52.48とパチスロ比率が高め（全国62.38）。客数比も、ほぼ同様です。

喫煙と禁煙の比率は64.36（本館・新館時代は73.27）で、トータル客数比もやや喫煙に分があります。興味深いのは、貸玉料金によって構成比が大きく異なるところ。内訳は、4パチが、喫煙

■JR大宮駅前エリアのホール分布図



出典:国土地理院ウェブサイト (http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html) 地理院タイル(標準地図)を加工して作成

■エリア内店舗リスト

	店舗名	総台数	P台数	S台数
1	楽園大宮店	3030	1584	1446
2	パチンコプラザ ラ・カータ	672	416	256
3	大宮セントラルホール	393	241	152
4	パチンコどんじやら	284	146	138
5	ことぶき大宮店	235	131	104
6	ことぶき大宮西口店	174	60	114

■楽園大宮店稼働リスト ※上段:実客数/台数 下段:稼働率

		4円P合計	P低玉合計	パチンコ合計	20円S合計	S低玉合計	スロット合計	PS合計
5月10日(木) 19時	喫煙エリア	663/872	187/207	850/1079	577/860	—	577/860	1427/1939
		76.0%	90.3%	78.8%	67.1%	—	67.1%	73.6%
	禁煙エリア	116/210	—	116/210	—	178/342	178/342	294/552
		55.2%	—	55.2%	—	52.0%	52.0%	53.3%
5月25日(金) 19時	喫煙エリア	504/872	149/207	653/1079	605/860	—	605/860	1258/1939
		57.8%	72.0%	60.5%	70.3%	—	70.3%	64.9%
	禁煙エリア	164/210	183/295	347/505	119/244	191/342	310/586	657/1091
		78.1%	62.0%	68.7%	48.8%	55.8%	52.9%	60.2%
全店合計		668/1082	332/502	1000/1584	724/1104	191/342	915/1446	1915/3030
		61.7%	66.1%	63.1%	65.6%	55.8%	63.3%	63.2%



小野真二郎 (おの・しんじろう)
 神奈川県出身。大手パチンコチェーン店に12年勤務。店長・ブロック長・パイヤーを経て2011年に独立。2015年4月よりホール向けのツール・情報サイト「Re.design」の運営をスタート。新台評価、および商圈分析、機械の導入提案などを行う。

872台、禁煙210台、20スロは同860台と同244台。一方、低貸しは、1パチが同207台と同295台、5スロは禁煙のみ342台となっています。

フロア構成など、物理的な制限もあるかと思いますが、本館を禁煙、新館を喫煙としていた時代のデータが生かされているのではないのでしょうか。通常貸しを勝負客、低貸しを時間消費型と分類すると、勝負客⇨既存比率が高い、時間消費型⇨新規開拓の余地ありとの判断かもしれません。

禁煙エリアの客数アップが一时的なものなのか、そのまま定着するのか。単に日本一の設置台数というだけでなく、ユーザー動向の変化を察知しやすい定点観測地としても、注目を集めそうです。